

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの平成19年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>1. リカレント教育 社会人に対するリカレント教育については、今後、その方策等について検討するとのことであるが、社会人等、学生以外の者を対象とした履修証明制度の活用など、社会人に対するニーズを捉えるとともに、学びやすい教育環境の整備充実に取り組まれるよう求めたい。</p>	<p>1. リカレント教育 リカレント教育の充実を図るために、大学院改革に併せて、本年度において以下の取り組みを行った。</p> <p>①平成21年4月に設置する北東アジア開発研究科の博士前期課程において、社会人を対象とする長期履修制度(修学期間は最長4年)を創設した。</p> <p>②勤労者が授業を受けやすいように、平成21年度から大学院の授業を平日の7限目(20:00～21:30)と土日にも実施することとした。</p> <p>③社会調査士及び専門社会調査士の資格取得が行えるように、カリキュラムの見直しの検討を行った。</p>
<p>2. FD 全学運営組織としてFDセンターが設置され、全学的に授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等が実施されているが、さらに授業評価アンケートにおける回答率及びフィードバック率の向上を図られるとともに、今後は、アンケート評価等を踏まえ、具体的な改善行動(アクション)に結びつけるための取組を期待する。</p>	<p>2. FD 評価委員会からの指摘を踏まえ、次のとおり改善策を講じた。</p> <p>①授業アンケート回答率 FD委員会は授業アンケート回答率低下に危機感を持ち、10月に「授業アンケート回答率アッププロジェクト」を立ち上げて調査・検討をおこなった。その結果、回答率低下の主因は、教員の意識不足と学生のPC忘れであることが判明したことから、今年度秋学期の授業アンケートにおいては、教員への注意喚起を行うとともに、PCを忘れた学生については、情報演習室でアンケート入力をするように指導を行った。</p> <p>②アンケート調査を具体的な改善アクションに結びつけるための取組 CheckをActionに結びつけるための「取組み」が弱いことから、教員の学生に対するWebを使ったフィードバックを徹底するとともに、平成21年度から、夏期休暇が終了し秋学期授業が開始する前の時期に、20名程度の教員を対象に一泊二日で合宿研修を行い、春学期の授業を体系的かつ方法的に「ふりかえり」場を設定することとした。</p>